

外部評価委員会報告書について

構 成

(1) 目次

(2) はじめに

(3) 泉佐野市の行政評価について

①現 状

②課 題

- ③方向性 → ・今後の外部評価の進め方
・施策評価及び行政評価システムについて

④外部評価シート

(4) 資料編

1. 外部評価概要

- 1－1 目的
- 1－2 評価対象施策
- 1－3 評価方法
- 1－4 行政評価スケジュール

2. 外部評価委員会

- 2－1 構成
- 2－2 開催日程
- 2－3 外部評価委員会設置要綱

3. 施策体系図 (A3)

はじめに

人口減少社会、高齢化社会が急速に進展し、地球環境問題、長引く景気の低迷など負の社会潮流の中で、各自治体でいろいろな課題が発生し、国をはじめ多くの地方自治体で厳しい財政の舵取りが続いています。

一方、情報化や国際化、ライフスタイルの多様化、情報公開など正の社会潮流の中で、各自治体に大きな変革が求められています。

そのような中、泉佐野市は、平成 20 年度決算で、財政健全化法による早期健全化基準を超えることとなり、19 年間という長期の財政健全化計画を立て、より一層収支の改善に取り組んでいかなければならない状況下にあります。

更に、平成 20 年第 4 次泉佐野市総合計画が策定され、行政の目標を測定するための指標が設定され、より広くかつ高い視点から、市の運営を行い、市民に分かりやすく説明できる市政が求められています。

行政評価の外部評価の方法や内容は各自治体で様々であり、この外部評価委員会も当初レールのない列車に乗り合わせたような思いの中で、委員会を前へ前へと積極的に進めて行く姿勢を大切にしながら、専門性や、経験、見識等の異なる各委員が集まり、泉佐野市を一つでもより良くして行こうとの思いで、外部評価委員会を進めて参りました。

本報告書は、平成 22 年度の施策評価について外部評価委員会が、その設置目的である「評価の客観性及び信頼性の確保、並びに効率的で質の高い行政の推進」を達成するために計 7 回にわたる議論の結果をまとめたものであります。

終わりにになりますが、評価の過程で、資料の提出やヒアリングに対応していただいた事業担当者へ委員一同、感謝申し上げますとともに、本報告書が第 4 次泉佐野市総合計画に掲げられている市の将来像「賑わいと歴史のある迎都 泉佐野 ーひとを育み ひとにやさしくー」の実現に少しでも役立つことを切に望むものであります。

平成 23 年 1 月 委員一同

(3) 泉佐野市の行政評価について

①現 状

平成 15 年度の泉佐野市施政方針の中で「より効率的で効果的な行財政運営を行うため、事務事業や施策についてその目的やコスト、効果等を明確にするなど、行政評価システムの試行に取り組んでまいります。」との方向を打ち出し、平成 16 年度より行政評価システムを構築し、まずは、事務事業評価からスタートして参りました。

事務事業評価の方法として、担当課による 1 次評価、政策推進課・行財政管理課による 2 次評価、理事者による 3 次評価を行い、運営事業及び施設管理事業合わせて 300 以上の事務事業評価を行ってきました。

平成 20 年度に平成 21 年度から始まる第 4 次泉佐野市総合計画を定め、「賑わいと歴史ある迎都 泉佐野 一ひとを育み、ひとにやさしく」を将来像に、これを達成するための政策施策体系を構築しました。

平成 21 年度から第 4 次総合計画が始まるに合わせて、施策評価の試行を行い、平成 22 年度は、施策評価の本格実施に合わせて、外部評価を導入いたしました。

②課 題

- ・施策の概要・目標と成果指標の関係について

成果指標の設定根拠については、一定施策評価シートに一定記載されているが、施策の概要あるいは施策目標と成果指標の関係をより明確に記載すべきである。

(第 1 章)

目標値の設定を低くとどめるのではなく、もう少し高く設定すべきである。

(第 2・6 章)

ハード的な指標に特化せず、ソフト的な指標も総合的に検討していくべきである。同じような指標ばかりでなく課題となる指標も検討すべき。

(第 3・4 章)

指標の課題分析の観点から指標を設定すべきである。

(第 5・6 章)

将来ビジョンを踏まえた積極的な指標の検討。

- ・めざそう値の設定基準について

今回の外部評価委員会の柱の一つに成果指標の妥当性、目標値の設定について検証を進める中で、めざそう値の実績が 100%をはるかに越えている事例については、一定目標設定の見直しをするべきであるとの意見が出された。

現在内部評価においてもどのタイミングで、どの基準で見直しすべきかが不明確な状況である。

- ・「施策に対する市民ニーズ」の評価基準の改善について

判定基準のひとつに「施策に対する市民ニーズ」は、平成 19 年度に行われた市民アンケートの満足度偏差値の結果に基づいて、55%以上、45～55%未満、45%未満の3段階で評価している。

市民アンケートを実施する場合、少なくとも同規模のものをするとすれば、2 百万円から 3 百万円は必要と見込まれる。今の市の財政状況で毎年するのは難しい。判定基準が、数年間固定してしまうという現状があ

る。

そのような状況下で、今回は後期計画の前年の 24 年に市民アンケートと考えている。

外部評価委員会では、施設型については、利用者アンケート等簡便な方法でその内容を把握することも可能ではないか。あるいは各課の個別計画を策定する際に満足度調査を実施する方法等が考えられる。

- ・ 内部評価の方法について

- (第 1・4 章)

- 1 次評価の担当課の自己評価については辛口に評価するべき。

- 2 次評価の評価については、市民への説明責任の観点からもコメントを入れるべきである。特に E, F 評価については、事業が何故段階的廃止となるのか。何故事業が休止（完了）となるのかの分かりやすいコメントが必要と思われる。

- (第 2 章)

- 内部評価の考え方について、基本的には事後評価で実施している。今回青少年センター運営事業のところで、1 次評価（担当課）青少年の健全育成を進めたいとの思いから拡充 A、2 次評価（行財政管理課、政策推進課）は、早期健全計画のあるものについて、一定計画が実行されるまでは C 評価とするとしたものであります。

- 外部評価委員会の意見としては、事後評価として B 評価とし、将来の方向性についてはコメントとして表示する考え方が示された。

- (第 5 章)

- 担当課として危機意識を持って、施策の目標達成により積極的に展開していくべきである。

- ・ 施策を横断する取組みについて

- 担当課ヒアリングにおいて、施策目標を実行に移していく上で、各課あるいは施策を横串する取組みが必要である。

(その他の提言)

- ・広報の情報戦略について（第 1・4 章）

特に第 4 章の安全で適切な廃棄物処理の推進のところで、ごみ関係の広報について、市全体で有効な方法を工夫してはどうか。

- ・ワンストップサービスについて（第 3・5 章）

第 3 章家庭と地域における子育て支援で、子どもに対する施策を児童福祉から教育・保健・医療など多面的に展開を図るためにも市民サービスの立場に立ったワンストップサービスの検討が必要である。

第 5 章の商工振興については、官民一体のワンストップサービスの検討が必要である。

- ・既存施設を活用した施策の展開（第 3 章）

青少年の健全育成は、全市的な展開を本来図るべき、既存施設をより有効に活用する方法論もあるのではないか。

- ・基本方針の策定について

第 5 章の商工振興と第 6 章の市営住宅の整備については、進むべき基本方針を定めたうえで、施策目標の実現に向け努力するべきである。

③方向性

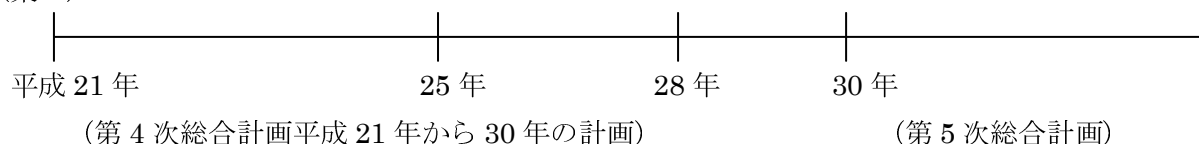
外部評価委員会では、63 施策から評価対象事業を各章から 1 施策計 6 施策抽出し、担当課とのヒアリングを踏まえ、外部評価委員会の今後の進め方について方向性の提言をいただきたい。

内容については、泉佐野市の外部評価を進めていく上での指針となるような形でとりまとめをお願いしたい。

具体的には 2～3 案程度の方向性を盛り込んだ内容としていただき、市が次年度以降の判断材料となる提言としていただければと考えております。

(参 考)

(案 1)



総合計画は 10 年スパンで計画を立て、引き継がれていくサイクルを考慮し、外部評価の活動を設定。平成 23 年から 28 年の 6 年間で 1 年当たり 9 施策～10 施策の評価を実施。また、その結果を平成 28 年から第 5 次総合計画の準備が始まる作業にも反映させることが出来る。

(案 2)



25 年の後期計画の前に外部評価委員会を開催する。その結果を踏まえ後期計画の成果指標の進捗を図る。外部評価対象事業を選定し実施。その後 27 年に実施し、後期計画時期での進捗を検証。それにより第 5 次総合計画へ連携させる流れとなる。

泉佐野市行政評価外部評価シート

政 策 名	第 1 章 市民と協働し、すべてのひとが輝く まちづくり（自律・協働）	節	第 6 節 参画と協働
施 策 名	コミュニティ活動の支援		
担 当 課	自治振興課		
①施策の成果指標の妥当性、目標値の設定の検証			
・町会加入率の指標は、市と市民のコミュニケーションがとれているかどうかという観点から一定妥当性がある指標と判断出来る。 ・地震や火災などの大きな問題が発生した時に町会加入率が低いと町会の伝達網が機能しない事態となるため、町会加入率はそれを測る重要な指標でもある。その意味では目標値の設定を 70%ではなくて、もう少し高く設定するべきである。 ・行政サービスの広報率を評価する新たな指標の可能性について検討をすること。			
②進捗状況の検証（該当する箇所に○を記入してください。）			
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。	
B		ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。	
C	○	目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。	
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。	
備 考			
③外部評価からの提言等			
内 部 評 価 へ の 指 摘 事 項	・自己評価については、正当化するのではなく、辛口に評価すること。 ・評価シートには、もう少し自由に記載して良いのではないかな。 ・施策評価の 2 次評価については、必ずコメントを入れること。		
提 言	・町会が任意団体であるが、担当課で現状の把握を第 1 段階としてまず行うべきである。次に課題を整理した上で、町会と連携する工夫をすべきである。 ・マンションの管理組合イコール自治会、町会にはならないという構造をどうかえるか。従来の町会だけを考えているだけでは、何も変わらない。町会のユニットの見直しを行う必要がある。 ・転入時の町会加入のチラシの作成やマンション並びに戸建て開発をしている業者へ町会加入の説明を行うなど、自治振興課の町会加入率への取組みを現在行っているが、更に加入促進の取組みを強化するべきである。 ・町会活動内容がオープンになっていない。各町会がホームページで紹介され、祭りや町会の催しが分かる仕組みが欲しい。		

泉佐野市行政評価外部評価シート

政策名	第2章 歴史・文化を大切にし、ひとを豊かに育むまちづくり（教育・文化）	節	第2節 生涯学習・スポーツ
施策名	青少年の健全育成		
担当課	青少年課		
①施策の成果指標の妥当性、目標値の設定の検証			
・施設型の指標としては、利用者数よりも、その施設を利用したことによって、利用者がどのような満足を感じているかという満足度の指標が必要である。指定管理者制度が導入されている場合は、指定管理者から利用者アンケートに関するデータを必要に応じて提出させる必要がある。 ・青少年の健全育成という施策に対して、より適切な指標の追加の検討を要する。例えば青少年の犯罪率及び地域行事等への参加率など。 ・ハード的な指標だけに特化せず、ソフト的な指標も総合的に検討して行くべきである。			
②進捗状況の検証（該当する箇所に○を記入してください。）			
A	計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。		
B	ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。		
C	目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。		
D	目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。		
備考	施設の利用者数という指標だけでは、青少年の健全育成を測定する指標として妥当性に問題があるため、進捗状況の検証は空欄とする。		
③外部評価からの提言等			
内部評価への指摘事項	・事務事業評価シートの青少年センター運営事業で、一次評価で A 評価、二次評価で C 評価となっている。基本は事後評価であるから、B 評価として、将来の方向性については、コメントとして記載するべきである。外部評価委員会の評価としては B 評価である。		
提言	・泉佐野市の青少年関連施設に関しては、地域に偏在している。青少年の健全育成の地域的隔たりを解消する施策展開を検討するべきである。例えば新たに箱物をつくるということではなく、文化センターなど他の既存施設をより有効に活用する方法で青少年の健全育成を全市的に進める事業を検討するべきである。		

泉佐野市行政評価外部評価シート

政 策 名	第 3 章 やさしさとふれあいのあるまちづくり (安心・健康)	節	第 3 節 児童福祉
施 策 名	家庭と地域における子育て支援		
担 当 課	児童福祉課		
①施策の成果指標の妥当性、目標値の設定の検証			
①成果指標の一つにファミリサポートセンター登録会員数が掲げられているが、現在登録会員の内訳として、依頼会員と提供会員の数値の合計数で算出されている。指標の課題分析の上でも依頼会員と提供会員を分けて指標を設定するべきである。 ②施策の目的と現況と課題がリンクしていないところがある。施策の概要で子育て支援と もう一つ児童虐待の未然防止の説明があり、その部分での成果指標が必要である。 ③家庭児童相談や子育てを抱える世帯の就業者数など社会的データ・課題と施策をリンクする成果指標を検討してはどうか。			
②進捗状況の検証（該当する箇所に○を記入してください。）			
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。	
B	○	ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。	
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。	
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。	
備 考			
③外部評価からの提言等			
内 部 評 価 へ の 指 摘 事 項	①現実的な問題で、子育てや次世代への施策について財政的には限界がある中で、乳幼児医療助成事業は、担当課 1 次評価が A 評価で、政策推進課行財政管理課 2 次評価が B 評価としていますが、外部評価委員会として人口減少の政策的視点も踏まえて評価することも必要ではないか。		
提 言	①子どもに対する施策を児童福祉から教育・保健・医療など多面的に展開を図る必要があると考えられる。そのためには、市民サービスの立場に立ったワンストップサービスの検討が今後必要ではないか。組織的には縦割りの組織を横串する連絡会議で検討することが必要と考える。		

泉佐野市行政評価外部評価シート

政 策 名	第 4 章安全で、ひとと地球にやさしいまちづくり（安全・環境）	節	第 4 節 廃棄物処理
施 策 名	安全で適切な廃棄物処理の推進		
担 当 課	環境衛生課		
①施策の成果指標の妥当性、目標値の設定の検証			
・ 泉佐野市は、家庭ごみの排出量が府下最低である一方で、事業系ごみは府下トップとなっている。りんくうタウンの事業所が増えていく見込みのもとで、成果指標を家庭ごみと事業系ごみとに分けて分析をすることにより、目標設定がより明確になるのではないかな。 ・ 目標の設定については、総合計画時の人口推計により、右肩上がり設定になっているが、平成 22 年度にごみ処理基本計画の見直しに際して、大幅な人口増、社会増も望めない状況であれば、減量計画を反映し、ごみの排出量を減らすという目標設定にすべきである。 ・ ごみ処理の総事業費といった経済的な成果指標も必要ではないかな。			
②進捗状況の検証（該当する箇所には○を記入してください。）			
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。	
B	○	ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。	
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。	
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。	
備 考			
③外部評価からの提言等			
内 部 評 価 へ の 指 摘 事 項	・ 段階的廃止の E 評価や即廃止（完了）の F 評価は、1 次評価 2 次評価で何故そうなるのかのコメントが必要である。		
提 言	・ ただ単にごみを収集するだけでなく、環境バランスシートや再資源化率・CO2 換算率など環境面にどのように対応したかを市民に分かりやすく説明すべきである。そのためにはごみ関係の広報についても、泉佐野市全体の広報の位置づけの中で有効な方法を工夫すべきである。また、広報などの間接費を市全体で見直してコスト削減を考えていくべきである。		

泉佐野市行政評価外部評価シート

政 策 名	第 5 章 活力をうみ、賑わいのあるまちづくり (活力・賑わい)	節	第 1 節 産業
施 策 名	商工業振興		
担 当 課	商工労働観光課		
①施策の成果指標の妥当性、目標値の設定の検証			
①泉佐野市の従来の中小企業や産業構造だけに着目した成果指標になっている。福祉・医などのコミュニティビジネスや新規先端事業にも着目した成果指標の検討が必要である。 また、既存の数値より成果指標や目標値を設定するのではなく、将来のビジョンを踏まえた積極的な成果指標の検討が望まれる。			
②進捗状況の検証（該当する箇所に○を記入してください。）			
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。	
B		ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。	
C	○	目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。	
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。	
備 考			
③外部評価からの提言等			
内 部 評 価 へ の 指 摘 事 項	①商工業振興のとりまとめを担う商工労働観光課として危機意識を持って施策の推進に努めていただくよう要望する。 特に施策シートの施策の概要欄の「地域性を活かした企業誘致の促進や新産業の育成支援、地場産業支援センター等の施設を活用した高付加価値製品や新商品の開発を促進します。」という施策の目的達成に担当課としてより積極的に展開していくべきである。		
提 言	①泉佐野市の従来の中小企業や産業構造に脱却して、りんくうタウン等への付加価値のある先端産業の企業誘致や雇用を創出させるためのスモールビジネスなど産業構造の転換にも着目した中で、今後の商工業振興を検討するべきである。 そのためには、商工業振興のビジョンや根本的戦略を今一度再検討する必要がある、また、商工業振興について特に官民一体のワンストップサービスを検討してはどうか。少なくとも情報提供に関するワンストップ化は必要である。 ②商工業と観光、更には農業と連携した展開を創出し、雇用対策へ繋げてはどうか。		

泉佐野市行政評価外部評価シート

政 策 名	第 6 章 心地よく、くつろぎを感じるまちづくり (快適・憩い)	節	第 4 節 住 宅
施 策 名	市営住宅の整備		
担 当 課	建築住宅課		
①施策の成果指標の妥当性、目標値の設定の検証			
・成果指標としては、現在エレベーター設置によるバリアフリーアクセス住宅の割合・浴室設置住戸の割合・市営住宅の耐震化率の質的な 3 指標が設置されているが、市営住宅の空き家率や滞納率などむしろ課題となっている指標を設定することにより、効率的な管理を行うための工夫をすべきである。			
②進捗状況の検証（該当する箇所に○を記入してください。）			
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。	
B		ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。	
C	○	目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。	
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。	
備 考			
③外部評価からの提言等			
内 部 評 価 へ の 指 摘 事 項			
提 言	・泉佐野市を含めた泉州地域は、市営住宅以外に府営住宅や UR など公営住宅が多数存在している現況がある中で、他の公営住宅全体としてどう連携していくのかを考えた事業展開を今後検討するべきである。総合的な連携により空き家無くし、より効率的な管理となるよう進めていくべきである。 ・今後低額所得のセーフティネットということに集中して展開していくのか、災害に強い市営住宅を目指すのか、進むべき基本方針をきっちりと定める必要がある。 ・財政状況の厳しい中では、ハード的な整備は困難であるにしても、ソフト的な政策の展開を進めるよう工夫すべきである。例えば、公営住宅のコミュニティリーダーの育成や住民ニーズの把握などの対応が求められている。		

資 料 編

1. 外部評価の概要

1－1 目的

1－2 評価対象

1－3 評価方法

1－4 行政評価スケジュール

2. 外部評価委員会

2－1 構成

2－2 開催日程

2－3 委員会設置要綱

3. 第4次泉佐野市総合計画政策施策体系

1. 外部評価の概要

1-1 目的

市が実施する行政評価において市民等の外部の視点を導入することにより評価の客観性及び信頼性の確保、並びに効率的で質の高い行政を推進することを目的とします。

1-2 評価対象

外部評価の対象は、事務事業レベルでは内容が細かすぎるため施策レベルとし、施策評価シートを中心に、施策を構成する事務事業評価表を併せて検証することとします。

また、行政評価システムの改善等の意見や監視の役割を担うために、行政評価システム全体を対象とします。

平成22年度評価対象施策は第4次泉佐野市総合計画が掲げる第1章から第6章までの63の施策のうち、各章より1施策を抽出し、評価対象とした。

○第1章 自律・協働 第6節 参画と協働

施策1 「コミュニティ活動の支援」

○第2章 教育・文化 第2節 生涯学習・スポーツ

施策3 「青少年の健全育成」

○第3章 安心・健康 第3節 児童福祉

施策1 「家庭と地域における子育て支援」

○第4章 安全・環境 第4節 廃棄物処理

施策1 「安全で適切な廃棄物処理の推進」

○第5章 活力・賑わい 第1節 産業

施策4 「商工業振興」

○第6章 快適・憩い 第4節 住宅

施策1 「市営住宅の整備」

1-3 評価方法

担当課による1次評価、及び政策推進課、行財政管理課による2次評価の結果について下記の方法で施策の進捗状況を検証し、また、行政評価システムの監視の立場から行政評価外部評価報告書に意見を提言します。

①施策の成果指標の妥当性、目標値の設定の的確さを検証します。

②1・2次評価における判定（進捗状況）について妥当性を検証します。下記のとおり4段階の区分で評価します。

評価段階
計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。

ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。
目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

③対象とした事業については、担当課とのヒアリングを行い、経済性・効率性等の観点から施策とそれを構成する事務事業の関連について、必要なか、有効なのかなど意見を進捗管理の視点から一歩踏込んで、検証します。内部評価への指摘事項及び提言として行政評価外部評価委員会報告書にとりまとめます。

1－4 評価スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
市長・副市長							3次評価			市長・副市長 査定	3次評価 (外部評価対象)	
外部評価委員会					8/9 第1回 委員会	9/3 第2回 委員会	10/13 第3回 委員会	10/13 第4回 委員会	11/11 第5回 委員会	12/3 第6回 委員会	1/18 第7回 委員会	
政策推進課・ 行財政管理課						2次評価						
担当課				1次評価				予算要求				
行財政管理課								予算査定				
議会						決算 委員会			行財政 委員会			予算 委員会 議会 承認

2. 泉佐野市行政評価外部評価委員会

2-1 構成

		氏 名	役 職 等
1号委員	委員長	増田 昇	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
1号委員	副委員長	阿部 功	元大阪薬科大学准教授
1号委員		森田 將	公認会計士
2号委員		荒 眞智子	市民公募
2号委員		南 治郎	市民公募
3号委員		角谷 慎治	社団法人 泉佐野青年会議所理事長

2-2 開催日程

開催日時等	外部評価委員会の内容
平成22年8月9日(月) 第1回委員会 (2時間)	・委嘱式、委員長・副委員長の選出 ・外部評価委員会の基本方針について ・対象施策の抽出 総合計画各章より1施策を抽出、計6施策を評価対象とする。
平成22年9月3日(金) 第2回委員会 (2時間)	・評価対象施策の内容について、事務局より説明後、委員にて討議。 課題等の整理及び次回担当課ヒアリングの質疑内容の決定
平成22年10月13日(水) 第3回委員会 (3時間)	・担当課ヒアリング。委員との質疑応答。 評価、意見のまとめ 第1書 第6節 施策1「コミュニティ活動の支援」 第2章 第2節 施策3「青少年の健全育成」
平成22年10月28日(木) 第4回委員会 (3時間)	・第3回同様の作業を2施策について行う。 第3章 第3節 施策1「家庭と地域における子育て支援」 第5書 第1節 施策4「商工業振興」
平成22年11月11日(木) 第5回委員会 (3時間)	・第3回同様の作業を2施策について行う。 第4章 第4節 施策1「安全で適切な廃棄物処理の推進」 第6章 第4節 施策1「市営住宅の整備」
平成22年12月3日(金) 第6回委員会 (2時間)	・外部評価シートのとりまとめ ・外部評価委員会の今後の進め方 ・行政評価システムの提言
平成23年1月18日(火) 第7回委員会 (2時間)	・外部評価委員会報告について

2-3 委員会設置要綱

泉佐野市行政評価外部評価委員会設置要綱

(目的)

第1条 市が実施する行政評価において、市民等の外部の視点を導入することにより、評価の客観性及び信頼性の確保並びに、効率的で質の高い行政を推進することを目的として、泉佐野市行政評価外部評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 市が実施した行政評価について、外部の視点からの評価に関すること。
- (2) 行政評価制度の改善について市長に意見を述べること。
- (3) その他行政評価について、市長が必要と認める事項に関すること。

(構成等)

第3条 委員会は、委員6名以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者等
- (2) 公募による市民
- (3) その他市長が認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から委嘱の日の属する年度末までとする。ただし、再任は妨げない。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を各1人置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

3 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が必要に応じて招集する。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者または関係職員の出席を求めることができる。

3 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

4 委員会は、原則として公開する。ただし、公開が適当でないと認める場合は、この限

りでない。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、市長公室政策推進課が行う。

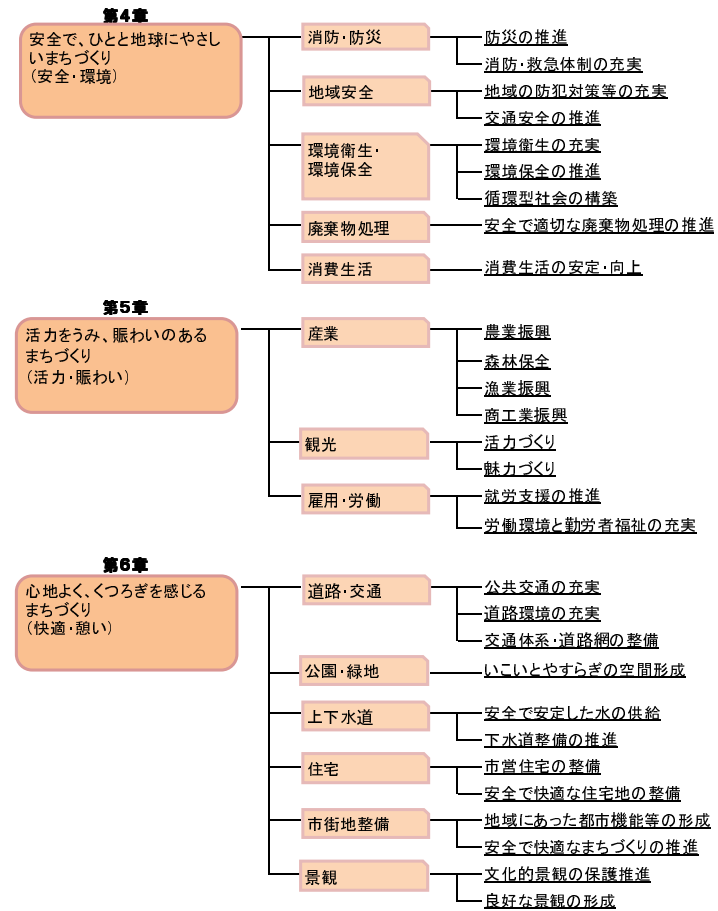
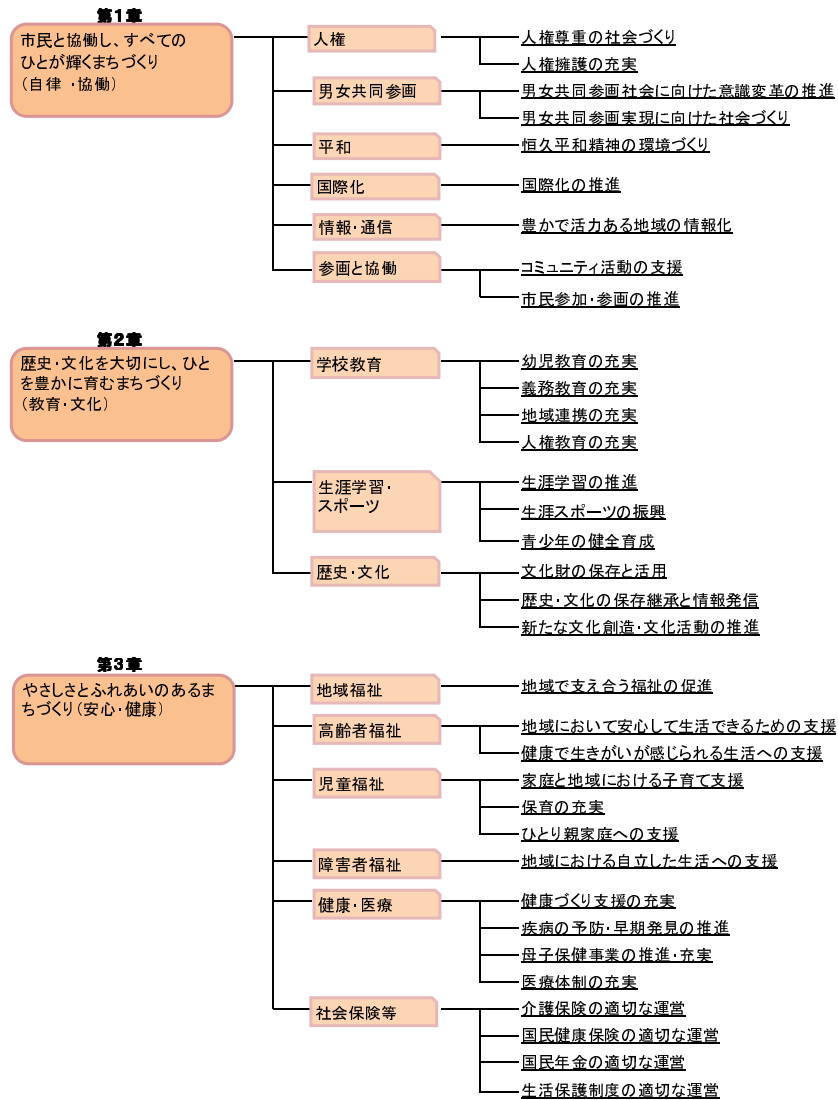
(補足)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員長が定める。

付則

この要綱は、平成22年5月7日から施行する。

○第4次泉佐野市総合計画政策施策体系



凡 例:

政 策

節

施 策